

昭和の森をぐるっと一回り

玉川弘幸 (千葉市)

日 時：2021 年 5 月 9 日 (日) 10 時～12 時 天候：晴れ
参加者：13 名 (男 5 名、女 6 名、子ども 2 名、指導員 7 名)
担当指導員：伊藤道夫 芳我めぐみ 玉川弘幸

好天のもと、5 月の昭和の森観察会が行われた。観察会に先立ち、指導員の方から所定の注意事項と、本日の観察ルートの説明があり、今日はゆっくり、気楽に森の自然を楽しんで歩いてほしいとの挨拶がありました。3 班に分かれて集合場所の東屋をスタートし、湿生植物園方面に向かった。早朝から吹いていた強い風も幾分か和らいで来たようだ。下見の時には見事な花を付けていたハクウンボクが、今日は枝に大きな葉を残して地面に白い花を落としていた。代わって、ヤマボウシが皆を迎えてくれた。足もとではマムシグサ、ハルジオン、ホウチャクソウなどが見られた。かわいいタツナミソウも顔を出している。途中で見つけたヘビイチゴとモミジイチゴの食べ比べに子どもは大はしゃぎしている。林の中から、ウグイスの鳴き声も聞こえる。藤棚のフジの花は疾うに終わってしまっていたが、周辺ではシロツメクサ、コメツブツメクサ、カラスノエンドウなどが観察できた。キブシの木の下では、地面に落ちているオトシブミを観察。キブシの葉を巻いてオトシブミをつくるのは、ウスモンオトシブミと言う甲虫らしい。それにしても、器用なものだ。“落とし文”を開いて中を覗いてみる。子どもも大人も興味津津だ。葉っぱの中には小さな卵が入っていた。観察後は元通りに戻しておいた。下タ田池に向かう辺りではキツネのボタン、ニワゼキショウ、イチゴツナギなどが多く観られた。林縁のクロモジの木の所では、この木から作られる楊枝の話をした。予め用意しておいたクロモジの枝や葉の臭いを嗅いでもらい、この木で作られた楊枝のサンプルを手にとって見てもらった。また、指導員から楊枝作りの話もあった。オニタビラコ、ノアザミを観察しながら先へ進み、カラムシの生えている所ではカラムシの繊維から作られるカラムシ織についての説明をし、カラムシの茎から取り出した繊維(糸)とそれを細かく裂いて織った布のサンプルに直接触れてもらった。池の水面に顔を出しているスイレンを横目で見ながら、さらに進み、四季の道入口の水路傍では、水の行方について、昭和の森は 3 方向に分かれる分水界で、村田川(東京湾)、南白亀川(太平洋)、鹿島川(印旛沼)の源流であることを知ってもらいました。四季の道の、2019 年の台風 15 号により被害を受けた場所では、被害理由の一つでもある、「溝腐れ病」にかかった山武杉の倒木が多かった事や、森の主役である、シイ、カシ、コナラ、クヌギなどを植林して森を戻す計画が、市民参加で行われていることを紹介しました。カラタネオガタマの香りに誘われて、花木園へちょっと寄り道。トチノキ、ベニバナトチノキの大きな円錐形になって咲く姿と大きなうちわの様な葉が印象的でした。展望台で、しばし休憩を取ってから、市町村の森をぬけて出発地点の東屋に向かった。

- ・トンボを持った男の子は、親子田んぼ教室にも参加してくれています。
- ・5 歳の女の子も最後まで歩きとおしてくれました。



また、観察会に来てくれるかな！

ウスモンオトシブミの「ゆりかご(落とし文)」